

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 24' 21"	
				経度	130° 54' 5"	
学園橋 (フリガナ) ガクエンバシ	町道 上中下中線	鹿児島県 熊毛郡 南種子町 中之下				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2017.9.26	河川	有	一般道	一次	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	中央テクノ株式会社	点検責任者	有村 寿光
点検時に記録					措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	漏水(劣化)	写真1、伸縮装置			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	損傷範囲は部分的であり、橋梁全体は健全であるため、Ⅰと評価した。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2002年	70m	12.80m
終点  始点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造()【判定区分: 】	上部構造()【判定区分: 】
支承部【判定区分: 】	その他(伸縮装置)【判定区分: Ⅱ】
	写真1 漏水 (劣化) 

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 26′ 0″	
				経度	130° 57′ 14″	
山田橋 (フリガナ) ヤマダバシ	町道 西之町広田線	鹿児島県 熊毛郡 南種子町 平山				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2017.9.29	河川	有	一般道	一次	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	中央テクノ株式会社	点検責任者	有村 寿光
点検時に記録					措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	定着部の異常	写真1、主桁5			
	横桁	Ⅱ	ひび割れ	写真2、横桁3			
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	ひび割れ	写真3、A1橋台			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	腐食	写真4、防護柵			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	PCの定着部異常が確認できたが部分的であり、鉄筋露出やひび割れ等の損傷範囲は狭いため、Ⅱと評価した。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1982年	19m	7.70m
起点  終点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅱ】 写真1 定着部 の異常 	上部構造(横桁)【判定区分: Ⅱ】 写真2 ひび割れ 
その他(防護柵)【判定区分: Ⅱ】 写真4 腐食 	下部構造【判定区分: Ⅱ】 写真3 A1橋台 ひび割れ 

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 25' 13"		
				経度	130° 57' 59"		
阿武鋤橋 (フリガナ) アブスキバシ	町道 西之町広田線	鹿児島県 熊毛郡 南種子町 平山					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2017.9.29	河川	有	一般道	一次		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)					点検者	中央テクノ株式会社	点検責任者	有村 寿光	
点検時に記録					措置後に記録				
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類		措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅲ	鉄筋露出	写真1、主桁					
	横桁	Ⅱ	鉄筋露出	写真2、横桁					
	床版	Ⅱ	鉄筋露出	写真3、床版					
下部構造		Ⅰ							
支承部		Ⅰ							
その他		Ⅲ	腐食	写真4、防護柵					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録				措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	上部工に鉄筋露出が生じているが、調査時に耐荷力の低下は見られないため、Ⅲと評価した。		(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1984年	26m	8.20m
終点  起点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅲ】		上部構造(横桁)【判定区分: Ⅱ】	
写真1 鉄筋露出		写真2 鉄筋露出	
上部構造(床版)【判定区分: Ⅱ】		その他(防護柵)【判定区分: Ⅲ】	
写真3 鉄筋露出		写真4 腐食	

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 25′ 52″	
				経度	130° 51′ 51″	
岩川大橋 (フリガナ) イワガワオオハシ	町道 椿山牛野線	鹿児島県 熊毛郡 南種子町 島間				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2017.9.28	河川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	中央テクノ株式会社	点検責任者	有村 寿光
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	腐食	写真1、防護柵			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅰ	損傷範囲は部分的であり、健全であるため、Ⅰと評価した。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1996年	60m	7.70m
終点  起点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(防護柵)【判定区分: Ⅱ 】		上部構造()【判定区分: 】	
写真1 腐食 			
支承部【判定区分: 】		下部構造【判定区分: 】	

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 23' 4"	
				経度	130° 55' 7"	
夏田橋 (フリガナ) ナツダバシ	町道 夏田郡原線	鹿児島県 熊毛郡 南種子町 中之下				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2017.11.22	河川	有	一般道	一次	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)				点検者	中央テクノ株式会社	点検責任者	有村 寿光
点検時に記録					措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	鉄筋露出	写真1、橋脚			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅱ	橋脚以外は補修済みであり、橋脚に鉄筋露出が見られるため、Ⅱと評価した。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972年	46m	4.70m
		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造()【判定区分: 】	上部構造()【判定区分: 】
支承部【判定区分: 】	下部構造【判定区分: Ⅱ】
	写真1 鉄筋露出

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 23' 29"	
				経度	130° 56' 21"	
中部橋 (フリガナ) ナカベバシ	町道 中部高山線	鹿児島県 熊毛郡 南種子町 荃永				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2017.9.19	河川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)					点検者	中央テクノ株式会社	点検責任者	有村 寿光
点検時に記録					措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅱ	鉄筋露出	写真1、主桁				
	横桁	Ⅰ						
	床版	Ⅰ						
下部構造		Ⅰ						
支承部		Ⅰ						
その他		Ⅱ	腐食	写真2、防護柵				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅱ	(所見等)	上部工に鉄筋露出や豆板が確認できたが、損傷範囲は狭いため、Ⅱと評価した。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1993年	28m	6.70m
終点  起点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅱ】		その他(防護柵)【判定区分: Ⅱ】	
写真1 鉄筋露出 		写真4 腐食 	
支承部【判定区分: 】		下部構造【判定区分: 】	

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 24' 1"	
				経度	130° 56' 19"	
雨田橋 (フリガナ) アマダバシ	町道 片板雨田線	鹿児島県 熊毛郡 南種子町 荃永				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2017.9.23	河川	有	一般道	その他	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)					点検者	中央テクノ株式会社	点検責任者	有村 寿光
点検時に記録					措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅱ	鉄筋露出	写真1、主桁				
	横桁	Ⅱ	鉄筋露出					
	床版	Ⅲ	定着部の異常	写真2、床版				
下部構造		Ⅱ	鉄筋露出	写真3、A1橋台				
支承部		Ⅰ						
その他		Ⅲ	鉄筋露出	写真4、防護柵				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)				措置後に記録	
点検時に記録				(再判定区分)	(再判定実施年月日)
(判定区分) Ⅲ	(所見等)	床版(間詰部)に鉄筋露出が広い範囲で確認でき、PCの定着部が腐食しているが、調査時に耐荷力の低下は見られないため、Ⅲと評価した。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1978年	19m	5.0m

起点



終点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分: Ⅱ】 写真1 鉄筋露出 	上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】 写真2 定着部の異常 
その他(防護柵)【判定区分: Ⅲ】 写真4 鉄筋露出 	下部構造【判定区分: Ⅱ】 写真3 鉄筋露出 

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 26′ 50″		
				経度	130° 57′ 11″		
大浦橋 (フリガナ) オオウラバシ	町道 長谷大浦線	鹿児島県 熊毛郡 南種子町 平山					
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
鹿児島県 熊毛郡 南種子町	2017.10.2	河川	有	一般道	その他		

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)					点検者	中央テクノ株式会社	点検責任者	有村 寿光
点検時に記録					措置後に記録			
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	Ⅰ						
	横桁	Ⅰ						
	床版	Ⅲ	定着部の異常	写真1、床版				
下部構造		Ⅰ						
支承部		Ⅰ						
その他		Ⅰ						

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

点検時に記録			措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	横締PC鋼材の定着部の一部が腐食しているが、調査時に	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
Ⅲ	耐力の低下は見られないため、Ⅲと評価した。			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1982年	27m	6.70m
終点  起点		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】		上部構造()【判定区分: 】	
写真1 鉄筋露出			
支承部【判定区分: 】		下部構造【判定区分: 】	